

(9) 中国



中国地域では、景気は一部に足踏みがみられるが、緩やかに回復している。

- ・ 鉱工業生産は持ち直しの動きがみられる。
- ・ 個人消費は緩やかに持ち直している。
- ・ 雇用情勢は改善の動きがみられる。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す (は上方に変更、 は下方に変更)。

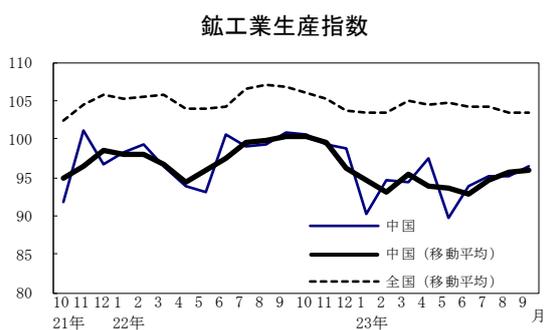
前回からの主要変更点

	前回 (令和5年9月)	今回 (令和5年11月)	
景況判断	一部に弱さがみられるものの、緩やかに持ち直している	一部に足踏みがみられるが、緩やかに回復している	↑
鉱工業生産	持ち直しの動きに足踏みがみられる	持ち直しの動きがみられる	↑

1. 鉱工業生産の動向

鉱工業生産は持ち直しの動きがみられる。

7-9月期の鉱工業生産は、前期比2.1%増となった。月別にみると、7月は化学が増加したこと等により前月比1.5%増、8月は汎用・生産用・業務用機械が増加したこと等により同0.1%増、9月は輸送機械が増加したこと等により同1.3%増となった。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		4-6 月期	7-9 月期	7月	8月	9月
輸送機械	23.2	▲2.0	3.1	7.3	▲9.5	15.4
汎用・生産用・業務用機械	13.3	6.4	4.8	▲6.4	11.1	▲5.4
化学	12.2	▲5.2	0.6	20.4	▲6.7	▲3.0
電子部品・デバイス	8.8	9.5	8.7	3.5	▲2.9	6.1
食料品・たばこ	6.8	4.9	▲4.2	▲0.8	▲0.8	1.5
鉱工業	100.0	0.8	2.1	1.5	0.1	1.3

(備考) 1. 2015年=100 (全国は2020年=100)、季節調整値。
中国の最新月は速報値。
2. 全国及び中国の太線は中心3か月移動平均。
直近月は2か月平均。

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。
2. 7-9月期、9月は速報値。

2. 個人消費の動向

個人消費は緩やかに持ち直している。

(1) 地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

7-9月期は前期比1.5%減となった。月別にみると、7月は前月比0.4%増、8月は同1.2%減、9月は同0.9%減となった。

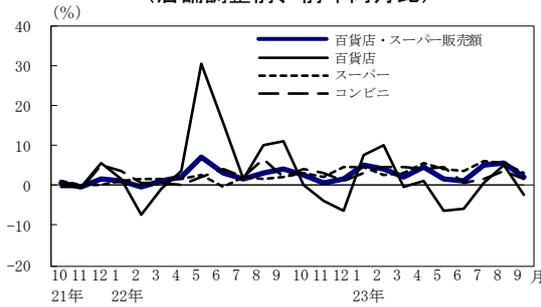
(2) 百貨店・スーパー販売額

百貨店・スーパーは、7-9月期は前年同期比4.3%増となった。月別にみると、7月は前年同月比5.1%増、8月は同5.7%増、9月は同2.0%増となった。

百貨店は、7-9月期は前年同期比1.2%増となった。

スーパーは、7-9月期は同5.1%増となった。

百貨店・スーパー販売額等
(店舗調整前、前年同月比)



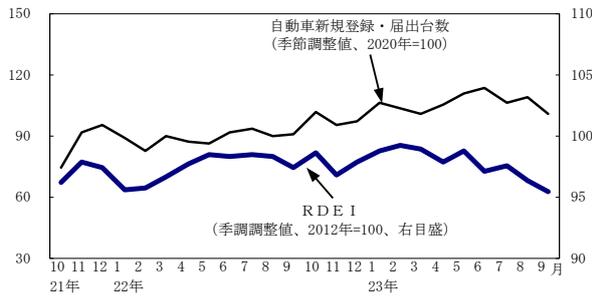
	2023年7-9月	2023年7月	8月	9月
RDEI (消費*1)	▲1.5	0.4	▲1.2	▲0.9
百貨店・スーパー(*2)	4.3	5.1	5.7	2.0
百貨店(*2)	1.2	0.9	5.3	▲2.2
スーパー(*2)	5.1	6.4	5.9	3.1
コンビニ(*2)	2.4	1.9	3.5	1.7
乗用車(*3)	13.7	13.2	18.7	10.3
(季節調整値) (*3)	▲4.3	▲6.8	2.9	▲7.2

(備考) 1. 季節調整済前期(月)比 (%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

3. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%))

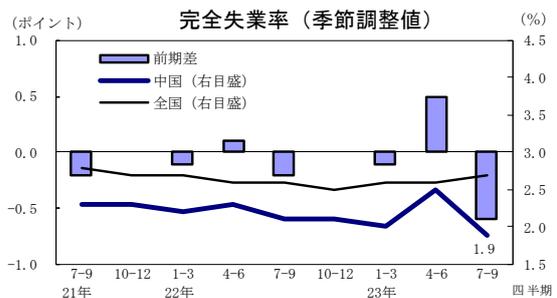
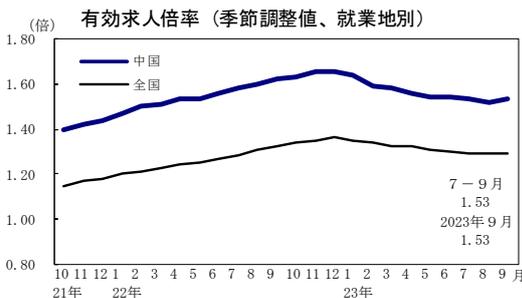
RDEI (消費) と自動車新規登録・届出台数の推移



3. 雇用情勢

雇用情勢は改善の動きがみられる。

有効求人倍率はこのところおおむね横ばいとなっており、前回の景気循環の平均的な水準にある (P10 参照)。一般労働者の定期給与は上昇している (P10 参照)。完全失業率は前期を下回っている。



(備考) 内閣府にて季節調整。

(13) 景気ウォッチャー調査（令和5年10月調査）景気判断理由の概要

9. 中国

(◎良、○やや良、□不変、▲やや悪、×悪)

分野		判断	判断の理由	
現状	家計 動向 関連	□	・食品の値上がりで、販売量が落ちている。販売量が減っても売上は前年並みで推移していたが、それも危うくなった（スーパー）。	
		▲	・朝も夜も利用客が少なく、3か月前よりも景気は悪くなっている（タクシー運転手）。	
		○	・ここ数か月は単価重視の販売を行っていることから、稼働が抑えめな傾向であったが、今月は、高単価を維持しつつ稼働も上がってきている（都市型ホテル）。	
	企業 動向 関連	□	・3か月前と比べて電子材料関連の素材製品の出荷に大きな変化はなく予算未達となっているものもある（非鉄金属製造業）。	
		▲	・10月より一部の材料価格が下落した。同業他社の生産が落ち込み、供給量が過剰になったためだと購入業者から説明があった（金属製品製造業）。	
		○	・半導体の安定供給により製造業の需要が高止まりする見込みである（輸送業）。	
	雇用 関連	□	・新型コロナウイルス感染症の影響が低減して以降、求人数は高い水準で推移し、その募集時給も採用難の長期化や最低賃金の上昇などが影響し上昇が続いている。加えて、未経験者の受入れ、休日増、在宅勤務可能など、採用条件を軟化させてでも人材確保に動く企業が増加しており、当面、この傾向は続いていくとみられる（人材派遣会社）。	
		▲	・物価上昇や最低賃金改定の影響があるが、価格転嫁できず利益が出ないと訴える企業がある（職業安定所）。	
	その他の特徴 コメント			◎：地元自動車メーカーの生産が好調であるため、景気が良くなっている（輸送用機械器具製造業）。 ▲：利用料延滞の件数が増加している。家計の可処分所得の低下が懸念される（放送通信サービス）。
	先行き	家計 動向 関連	□	・団体の宴会利用の申込みが順調に入っており、以前と比較しても多くなっているため、この良い状況は続くと思われる（観光型ホテル）。
○			・コロナ禍が明けて最初の年末年始を迎えるに当たり、お盆時期同様、人の往来が増加し、それに伴い来客数や売上が増加すると見込んでいる（百貨店）。	
企業 動向 関連		□	・資機材の高騰が収まる気配がない（建設業）。	
		○	・今後2～3か月に関しては、住宅建設に適した秋需の時期を迎えるため、景気はやや良くなるとみられる（木材木製品製造業）。	
雇用 関連		□	・求人はあるものの、事務希望者が多く、全員が希望する職に就職できていない状況である。マッチングが難しい状況が続くため、景気は平行線と判断する（人材派遣会社）。	
その他の特徴 コメント			○：新型車の発売が控えており、予約も順調に推移している。大幅な収益増とまではいかないが、堅調に推移する（乗用車販売店）。 ▲：景気は季節商材の売上に左右されるが、今年は暖冬と予想されているため、売上が増加しないとみられる（家電量販店）。	

(D I) 現状・先行き判断D I（中国）の推移（季節調整値）

